

研究課題	ICT を活用した防災教育による思考力・判断力・表現力の育成
副題	～「震災の語り」をつなぐ、「人と人」をつなぐ防災教育～
キーワード	防災教育 タブレット端末の活用 発信力
学校/団体名	大阪市立白鷺中学校
所在地	〒546-0003 大阪府大阪市東住吉区今川 1 丁目 2 番 21 号
ホームページ	http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j742694

1. 研究の背景

本校は全校生徒561名、各学年と支援学級を合わせて22学級の大規模校である。教育目標に「心」～魅力ある生徒の育成～、校訓として「思いやり」「そうぞう力」を掲げている。教育目標を達成するために、「防災教育」「キャリア教育」「団活動（異年齢交流）」を教育の3本柱として教育活動をおこなっている。東日本大震災以降、学校教育における防災教育の充実は重要な課題である。本校では2016年に、中学生の防災リーダーを育成する目的で生徒自主防災チーム【防災 Active Learn Team=『防災 ALT』】を結成した。防災 ALT は委員会・生徒会・部活動などと兼ねて活動することができ、防災学習会、校区小学校への出前授業、全校生徒への啓発活動などを積極的に行っている。防災啓発活動、地域連携、小中連携をさらに充実させ「人と人」をつなぎ、共助の力を高め、被災された方々からの震災の語りを「語り手」となって伝える。語りをつなぐ手段として ICT を活用し、大人から子どもに伝える「学び」ではなく、生徒どうしの語り継ぎを実現させ、語り継ぐ活動を通して、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。また、本校は平成28年度から大阪市教育委員会「学校教育 ICT 活用事業」モデル校の指定を受け、令和元年度は拠点校として校内で ICT 活用を実践し、全市に向けて ICT 活用の推進活動を行っている。

2. 研究の目的

本校の防災教育が目指す、大目的は地域を担う防災リーダーの育成である。自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力・貢献できるような人材を育成する。災害に適切に対応する能力の基礎を培い『生きる力』を育む。この目的を達成するために本研究では以下の5項目を実践した。

- ICTを活用して、東日本大震災を経験した方からの「語り」をつなぐ。
- 被災地の方の思いを、ICTを活用し、防災を「カタチ」にして地域や校区小学校に広めていく。
- 防災教育を通じて「いのちの大切さ」を学び、「生き方」を考えさせる。
- 「思いやり」「そうぞう力」を育む防災教育の実践。
- ICTを活用し、人と人をつなぐ防災教育の創造。

3. 研究の経過

時期	内容	評価・記録
4月	・1年生向け 防災 ALT 活動紹介、メンバー募集開始	
5月	・防災 ALT 全体会 ICT 活用の実態調査	アンケート調査

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・はるかのひまわりプロジェクト 開始 (防災ALT:1年) ・大阪市立今川小学校へ出前授業 活動紹介動画・授業提案 ・防災ALT全学年対象 タブレット研修① PP作成① 	小学校教員アンケート
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・防災×団活動 シェイクアウト訓練啓発 各団集会 ・プレゼンテーションコンクール2019 告知・募集開始 ・高知県四万十市立藤岡中学校と交流 (防災ALT:1年) 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ALT全学年対象 タブレット研修② PP作成② ・全校集会 東北視察アピール ・保健委員会×防災ALT 救命講習会 ・東北視察研修 事前学習 (視察参加生徒対象) ・三者会議(生徒・保護者・教員による会議)活動報告 	振り返りシート
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ALT東北視察研修(8/19,20,21) 宮城県方面 ・夏休み子ども防災合同研修会 参加校:大阪市立(鶴見橋・高津・瓜破西)中学校 講師:減災活動団体 akari 代表 安田もえさん 	<p>研修後作文、報告書作成</p> <p>参加者振り返りシート</p>
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・東北視察報告 PTA実行委員会 保護者向け ・3年生 防災土曜授業 地域防災リーダーと町歩き ・大阪市教育委員会「学校教育 ICT活用事業」ICT活用拠点校—ICT機器を活用した授業の実践と研究— 公開授業 ・白鷺ナイトウォーク(地域防災取組)防災啓発、視察報告 ・東北視察報告 東住吉区役所 区長他、防災担当 	<p>振り返りシート</p> <p>参加者アンケート</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションコンクール2019 エントリー2名 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭 舞台・展示発表 プレゼンコンクール参加者発表 ・青い鯉のぼりプロジェクト 防災ALT×図書委員会 ・大阪市立育和小学校 防災出前授業 ・1年生 防災講話・土曜授業 命の教育 講師:阪神淡路大震災 語り部 高井 千珠さん ・2年生 防災土曜授業 実働訓練 消防署・区役所連携 ・台風19号 被災地支援募金 校内・万代今川店前 	<p>全校生徒アンケート</p> <p>小学校教員アンケート</p> <p>振り返りシート</p> <p>振り返りシート</p>
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・台風19号 被災地支援募金 校内 ・2年生 防災連続講座① 齋藤幸男先生、asariさん ・地域交流会 活動報告 青い鯉のぼりプロジェクト啓発 ・防災ALT×保健委員会 歯と口の健康について 学習会 ・三者会議 報告、大阪市立高倉中学校とSkypeで交流 	<p>振り返りシート</p> <p>振り返りシート</p>
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講話 全校生徒 語り部1995 柴田 大輔さん ・白鷺プラス防災手帳 全校生徒配布 ・ぼうさい甲子園 授賞式 人と防災未来センター FW 	<p>振り返りシート</p> <p>振り返りシート</p>

1月	・プレゼンテーションコンクール2019 最終選考 ・防災ALT 防災ALTの活動・ICT活用実態調査	アンケート調査
2月	・予告なし避難訓練（全校生徒） ・東住吉区防災フェスタセミナー担当報告・ワークショップ *宮城県 語り部 雁部 那由多さんとの交流	全校生徒振り返りシート *新型コロナウイルス感染症に係る休校措置により中止
3月	*2年生 防災連続講座② 齋藤幸男先生、asariさん *3・11防災啓発	

4. 代表的な実践

「東北視察研修」 ～語り部の方とのつながり-主体的・対話的で深い学びの場～

「東北に行けるん（行けるの）？」「行きたい！」防災ALT生徒から参加を希望する声が多くあがったが、保護者の承諾を得て希望を届け出た生徒は8名であった。8名の生徒から3～4名に絞り込むため視察希望の課題作文、個人面談を実施し、一人ひとりが自分の思いを文章で表現、面談でプレゼンテーション、自分の持てる力で表現することへの挑戦から始まった。

生徒3名、教員4名で視察研修を下記の日程、内容で実施した。

<8月19日>

宮城県立石巻西高校元校長 齋藤 幸男さん「避難所運営ワークショップ」

「16歳の語り部」 高校生で語り部になった雁部 那由多さんのお話

南三陸ホテル観洋 伊藤 俊さんのお話

<8月20日>

石巻市立大川小学校訪問 佐藤 敏郎さんのお話

東松島市 あおい住宅地区会 会長 小野 竹一さん「あおい住宅日本一のまちづくり」お話

宮城県立石巻西高校元校長 齋藤 幸男さん「大人の経験知と判断」

小山 綾さん 齋藤 菜弥乃さん 「語り部として生きる」お話

安倍 志摩子さん 「わたしのあやまち」お話

<8月21日>

旧野蒜駅見学・東松島震災伝承館見学・松島湾観光遊覧船

各日、学習会を実施、研修を振り返りながら話し合い、視察後の報告に向けての準備を行った。

1日目…生徒どうしの話し合いができない。教員が話し過ぎる。

2日目…語り部の方から受け止めた思いを少しずつ出し、話し合いができるようになる。

3日目…復路フライト待ち時間、機内でタブレット端末を使用し、プレゼン資料の作成。

東北視察報告のキーワードを生徒は「未来」とし、視察研修で受け取った語り部の方々の思いを様々な発信の場に合わせ、どのように伝えるか何度も話し合いを重ねた。ICTを活用した発表内容決定、資料作成を進める中で主体的で対話的な深い学びの場が生まれた。

*報告先—夏休み子ども防災合同研修会（他校生徒向け）、本校PTA実行委員会（保護者向け）

東住吉区長・防災担当、白鷺ナイトウォーク（地域向け①）

文化祭（全校生徒、保護者向け）、地域交流会（地域向け②）、東住吉区防災フェスタ

「文化祭」 舞台・展示発表 ～ICTを活用した協働による思考力・判断力・表現力の向上～

文化祭舞台・展示発表は1人ひとりの生徒の得意な分野で力を発揮し輝く場である。生徒は頑張りたい気持ちと、身近な学年・学級の仲間はどう思われるだろうという不安な気持ちとを持ち合わせながら取組をスタートさせる。

<舞台発表>

東北視察研修参加生徒3名による15分間のプレゼンテーションを実施。

語り部の方々の思いを「語り手」となり生徒から生徒への語りつなぎ。

<展示発表>

- ① タブレット端末（6台）を活用し、パワーポイント自動再生による展示。グループ各1台のタブレット端末を使用してテーマ「減災・防災で伝えたいこと」「自分にとっての防災」から内容を考えパワーポイント資料の作成を行った。展示を見る人の立場に立った内容、再生時間、文字の色・大きさ、写真の活用、アニメーションなど、協働する中でアイデアを出し合い ICT がコミュニケーションツールとなり、思考力・判断力・表現力を高めることにつながった。



- ② 大型モニター（2台）映像資料繰り返し再生による展示
小学校への出前授業で使用した活動紹介動画、東北視察研修語り部の方々の映像資料
- ③ 写真、説明文による活動報告掲示

<終了後>

防災 ALT の生徒は文化祭後、学年や学級の仲間からの反響を直接受け取り、達成感を味わい、次の活動に積極的に参加する意欲につながった。

「Skype の活用」 ～子どもも大人もつながるって楽しい～

大阪市校園の授業者用 PC、タブレット端末には Skype for Business がインストールされており、教員は Skype を活用しやすい環境にある。大人が「おもしろい!」「簡単!」「やってみよう!」つながることの楽しさを実感する機会を作り、生徒の活動に発展させた。

<大人の活動>

校長室と職員室をつなぐ、タブレット端末を使用して教員どうしで接続「Skype おもしろい!」小中連携、出前授業の打ち合わせで小学校教員のタブレット端末で接続「Skype 色々使えそう!」防災土曜授業で2年生各クラスの意見を交流するために担任間で接続「Skype 絶対喜ぶ!」

<生徒の活動>

- ① 小学校の**防災出前授業**で6年生1組～3組をつないで意見を交流しよう。(失敗)
公開授業で保護者の来校も多く、教室間のネットワークがつながりにくい状況となる。
- ② 本校の**第2学年防災土曜授業**で1組～5組をつないで意見を交流しよう。(やや成功)
大型モニターに映像は映っているが音声聞こえない。接続が途切れてしまう。

③ 大阪市立高倉中学校生徒会との交流。(成功)

三者会議(生徒・保護者・教職員で行う学期に1回の会議)の中で相互交流。本校は東北視察研修から持ち帰った「青い鯉のぼりプロジェクト」、青い鯉のぼりを使用したしおり作りを紹介し東日本大震災に対する支援活動を啓発した。

④ 宮城県 雁部 那由多さんとの防災 ALT 全体交流。(中止)

接続テストで宮城県東松島市在住の雁部 那由多さんと遠隔交流体験。

5. 研究の成果

・本研究の大きな成果の一つに、1・17 防災未来賞ぼうさい甲子園において「だいじょうぶ賞」を受賞したことがあげられる。本研究で実施した生徒と教員による東日本大震災の被災地訪問、現地の方からの学びは、生徒・教員ともに「命の教育」として防災教育の未来に向けて行動する原動力となり、防災教育をさらに充実させることにつながった。そして、保護者・地域の方々の防災教育に対する理解と支援体制が受賞へと導いてくれた。

・防災 ALT の活動の大きな役割として減災・防災を伝える「発信」は、ICT 機器の活用なしには成立しない。防災 ALT 対象の ICT 活用研修は、タブレットの立ち上げ方からスタートしたが、2 学期以降はパワーポイントによる資料作成などを自ら積極的に活用することができた。(表 1) これは、本校の各教員が ICT を活用した学力向上を目指した授業研究を進めたことにも関連している。授業、異学年交流などでも積極的に活用し、授業・学校行事でのタブレット端末活用率は 70%以上で、大阪市校園中学校内で第 3 位(2019 年 12 月)の活用率となった。

アンケート結果(表 1)

＜防災 ALT 対象アンケート＞	目標	結果
防災 ALT の活動で ICT 機器を使用する機会がありましたか 「はい」	75%以上	95.6%
ICT 活用してスライド・画像・動画などを作成し、自分の作品を友だちに向けて発表したり、友だちと共有したことがありますか。 「はい」	75%以上	86.9%
ICT は防災の活動を伝えるのに「有効だ」。	80%以上	95.6%
授業中や委員会活動など防災 ALT の活動以外で ICT 機器を活用することができましたか。 「はい」	—	95.6%
＜小学校教員対象アンケート＞		
ICT を活用した防災授業は防災を伝える手段として「有効だ」。	—	100%
＜全校生徒対象アンケート＞	目標	結果
今までの防災の取組によって、防災について考えることが大切だと感じるようになった。	90%以上	93.1%

・パナソニック教育財団プレゼンテーションコンクール 2019 への挑戦は生徒の思考力・表現力を向上させることにつながった。エントリーした 2 名の生徒は文化祭の舞台上で堂々と発表することができた。コンクールエントリーまでの過程で PP 資料作成、発表原稿の推敲、発表練習を積み重ねたことが大きな自信となり 1 名は最終選考に臨み、奨励賞に入賞することができた。

・本研究の特筆すべき成果に2名の生徒の成長がある。中学2年生から防災ALTに参加している男子生徒は大阪北部地震ボランティアや、啓発活動にも積極的に参加する生徒であったが自分に自信が持てずにいた。東北視察での出会い、視察研修報告に向けて自分の言葉で防災の未来を語り伝えたことで大きな達成感を味わった。この経験は彼の自己肯定感を高めることにつながり「高校生になっても防災の活動を続けていきたい。」と希望する進路を獲得した。もう1名は、プレゼンテーションコンクール2019で奨励賞に入賞した女子生徒で生徒会役員として生徒会運営にも積極的に参加するしっかり者の顔を持つ生徒である。東北視察研修に参加し、報告でも中心的な役割を果たした。この生徒のプレゼンコンクールへの挑戦は思考力・表現力を向上させただけでなく自己を深く見つめ、内面の弱い部分と向き合い、弱さを外に向けて表現することで強さに変えていった。最終選考で見せたプレゼンテーションは保護者・教員の心を打った。

・校内全体で、プレゼン力の高い生徒が増え「大阪市いじめを考える中学生フォーラム」では全市生徒会代表をまとめる役目を果たしリーダーシップを発揮した。本研究の実践により、子どもたちの言語活動の充実、自己表現能力の向上を図ることができた。また、教職員全体にICT機器を活用した主体的・対話的な深い学びの授業研究が広がった。

6. 今後の課題・展望

本校は防災ハブ校を目指す。保護者、地域、校区小学校、関係諸機関との連携をさらに深め白鷺中学校区の防災について考え、行動できる実践的な体制作りを行う。防災教育にICT活用は必要不可欠である。Skypeによる遠隔交流で被災地語り部の方々とのつながりを継続すること、他校との交流にも活用していく。また、中学生のICT活用能力が地域防災で発揮できるよう「地域の財産＝人」作りに取り組む。

7. おわりに

防災教育は、災害に対する知識と技能、災害時にどのように行動するかにとどまらず、広い視点でとらえ社会の一員としてどのように生きていくかを学ぶ場でもある。防災ALT生徒は減災・防災の「発信」を通じて社会参加・貢献を経験し「自分は役に立つ人間だ」と実感することができ、自己有用感を高めることにつながった。3学期に実施した本校の全校生徒意識調査においても95.3%(2学期より+1.7)の生徒が「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えている。本研究で取り組んだ防災教育、本校の教育活動全般の中で育まれた、心の変容である。

最後に本研究の実践にあたり、申請段階からアドバイスをいただき、東北視察研修のコーディネート、進むべき防災教育の羅針盤となってくださった齋藤幸男先生に心よりお礼申し上げます。そして、実践を支えてくださった保護者、教職員、地域の皆様に深く感謝いたします。

8. 参考文献

- 諏訪清二(2015)『防災教育の不思議な力－子ども・学校・地域を変える』岩波書店
 文部科学省 学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開(平成25年3月)
 文部科学省 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ安全教育(平成31年3月)